

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第76号

ねんりんピック富山2018に参加して

小島 啓三郎



厚生労働省、富山県、長寿社会開発センターが主催するねんりんピック富山2018に参加しました。ねんりんピックの正式名称は全国健康福祉祭で60歳以上の高齢者を中心としたスポーツ、文化、福祉の祭典です。今大会は31回目、富山市を中心として県内15市町村の会場で11月3日(土)から6日(火)までの4日間開催され、かながわ子ども教室は富山市総合体育館で開かれた協賛イベントに11月3日から5日まで参加いたしました。これで2008年の鹿児島大会から連続で11回目の参加となります。

参加者は「かながわ子ども教室」から15名、交流会から廣岡会員が特別参加、そして、共同参加していただいた「きらめきライフ多摩」から3名の19名で、出展科目は空気・光学・電気と「きらめきライフ多摩」の浮沈子の4つです。

今回は富山出身の糸井会員に開催前日の11月2日の観光を計画していただき、10名が「トロッコ列車で行く黒部峡谷」、8名(含むきらめきメンバー)が「運河登りとガラス美術館」に参加いたしました。

私は黒部峡谷組に参加し、絶景を楽しみました。写真はトロッコ列車の終点樺平付近の景色です。また、以下は運河組に参加された平林会員の感想です。



富山市ガラス美術館 デイル・チフォーリ<トヤマ・ミルフィオリ>2015 2018.11.2

「トロッコ列車には2回乗った事があるので、今回富山市内の観光を選びました。まず富山駅前でも美味しいお寿司をいただいてからスタート。北前船の廻船問屋、森家を見学しました。豪商の家の佇まいに感心する事しきり。入けのない岩瀬地区を歩きながら一瞬のタイムスリップに落ち入りました。印象的だったのは運河クルージング。2.5メートルの高低差をパナマ運河式閘門で調整する水のエレベーターです。水門を閉めて水を入れ同じ高さにして船を持ち上げると言った

らいいでしょうか。とても貴重な経験でした。

富山は昔から置き葉の土地柄、薬瓶を作っていた事でガラス工芸に力を入れており、隈研吾氏設計のガラス美術館は素晴らしかったです。藤井さん撮影の写真をご覧下さい。その他、環水公園の夜のイルミネーションが綺麗でしたね。朝の散歩は富山城址附近を歩きました。ホテルイカの沖づけや干しホテルイカ(お酒のつまみばかりですが)をお土産に買い求め富山が大好きになりました。」

ホテルについては、去年は確保に苦労いたしました。今年は白幡会員のご尽力で駅前の東横インが全員分シングルで早々と確保でき、快適に過ごすことができました。

また、3回の会食については、大田会員が富山湾の魚を中心とする、素晴らしいメニューを考えていただき、心ゆくまで、富山の美食を堪能いたしました。

さて、本題の「おもしろ科学実験教室」は総合体育館の2Fの第2アリーナの中のブースが割り当てられ、スペースとしては十分なものでしたが、2Fに上がる階段がきつく、また、どのようなイベントが2Fで開かれているかの案内がわかりにくく、集客の困難が予想されました。

初日は例年通り土曜日でしたが、文化の日の祝日ということもあり、多数の人出が予想されました。しかし、開場直後の入りは少なく、1Fに下りてみると、体育館全体へもあまり入ってこないことが分かりました。ステージイベントが開催され、多くの人が集まる「ふれあい広場」から見て、体育館は奥にあり、総合案内所も体育館内にあることから、中でどのようなイベントが開催されているかわからないというのが原因でした。そこで浮沈子とチラシをもって、広場内の子ども連れに積極的に呼びかけを行いました。そして総合案内所にもチラシを置かせてもらい、配布してもらいました。これが功

を奏し、749名と初日としてはほどほどの来客を得ました。(浮沈子は3時30分過ぎには初日の配布予定の150枚が品切れとなりました。)

2日目は好天という予報にもかかわらず、朝から時おり雨が降るといいう天候で、「ふれあい広場」にもほとんど客がないという状況にな

りました。そこで、階段途中まで幟を下ろし、前日以上に徹底的に客引きを行いました。513名と日曜日としては寂しい結果となりました。

最終日の天気は回復しましたが、午後3時までは189名と予想通りの寂しい状況でしたが、「アンパンマンショー」の終了とともに、呼びかけておいた幼児連れの来客があり、午後4時までに、なんとか290名の来客がありました。合計で1522名の来場でした。

今回、事務局に依頼し、近隣の6小学校にチラシを配布してもらいました。会場で、チラシを見せると、学校でもらっていますと言って、チラシを出す生徒もいたので、それなりに効果はあったと思われます。一方、会場内での配布用のチラシは、今回のようなレイアウトの時は、600枚以上



準備しても不足していました。

ねんりんピックはどうしても幼児が多くなりますが、中に埼玉から祖父の応援にきた小学校6年と4年の兄弟がいて、実験を楽しんでくれていました。今回ねんりんピックでは初めて用意した教室紹介の動画は、川崎フェスタのような関心は引けませんでした、「富山でこのような教室はあるのでしょうか」という質問が初日にありました。また、保育園の先生が熱心に浮沈子の作り方を尋ねていました。

今回は参加できなかった松下会員が、例年のように、県側とも事前に入念に折衝されるなど緻密に準備していただいたので、全員体調を崩すことなく、成果を上げることができたのではないかと感謝しております。

以上

<かながわ子ども教室> (森英敏)

前号からの3ヶ月間のおもな出来事をいくつかあげてみます。

まず新しいパンフレットが完成しました。新しいパンフレットを作ろうというきっかけは、ある教室で「教室内容の説明が具体的でないものがあり、地区担当から説明を受けて初めて理解できるものがあるので、募集の時にパンフレットの内容をそのまま使えない」という意見があったことです。これを受けて内容をチェックし、必要に応じて講師の了解をとって内容の見直しをはかりました。また見やすいように各教室の活字を統一し、各ページのイメージも合わせるようにしました。さらに今までの冊子方式ではなく、ルールクリアホルダーを利用方式に改めました。これは新規教室ができた場合に、これまでは各自が糊で貼り付けていたのに比較すると、非常に簡単にページを追加できるメリットがあります。これらの作業を経て10月の実行委員会のときに配布することができました。

11月3日～5日に富山でねんりんピックがあり参加しました。我々のブースは総合体育館の2階の奥まったところであり、配置が悪く集客が心配されました。そのため幹事の1人が「浮沈子」と「チラシ」を持ってイベント広場で客引きを行いました。そのうえ今回は2日目に雨が降り、日曜日としては非常に低調で500名あまりでした。3日目は平日であり、3時までで190名程度の来場でしたが、3時にアンパンマンショーが終わり、それまでに呼び掛けておいた子どもたちが1時間で100名あまりが来てくれました。その結果3日間合計で1552名の入場があり、配置場所と天候を考えればまずまずの入りであったのではないかと思います。今回の会場の広さは十分すぎるくらいで、むしろ閑散とした感じを受けました。お客様にはどの教室（空気・ひかり・電気・浮沈子）も好評でした。中でも空気は非常に人気があったと思います。子どもたちはもちろん一緒に来た親もすべての教室に興味を示していただきした。中には外国人（英会話教室の先生）も来られて、楽しい(?)会話をたのしみました。

今年の夏に教室が集中しているころ、猛暑の影響か教室開催日直前になって体調を崩す人が多くサポーターのやりくりが大変でした。さらに長期にわたって休会状態の人も多くメンバー不足の状態が続いています。そこで入会案内を作り、会員が知り合いの人に呼びかけやすくしようと、パンフレット作りが進んでいます。A4サイズを3つ折りにした形でまとめており、年内には完成し1月には会員のみなさんをお願いする予定にしています。